



下条中学校区 小中交流活動報告会 令和3年11月4日 説明は5ページ

## 巻頭言 『「15の春」を目指して』

指導管理主事 細木 久成

十日町市の小中一貫教育のよさは、「15の春」の子どもたちの姿を具体的に思い描き、その姿を目指して学区共通の取組や各学校の特色を生かした教育活動を進めていくところにあります。

十日町市の小中一貫教育は、平成22年9月に策定した十日町市小中一貫教育基本計画に基づいて、平成26年度の市内全校実施に向け、平成23年度から4つのモデル中学校区からスタートしました。

私事ですが、十日町市に赴任したのが平成22年4月でした。今思うと、十日町市の小中一貫教育の進化を目の当たりにしてきたように思います。

当時、川西中学校がモデル中学校区の指定を受けたこともあり、にわかに小中一貫教育について研修や会議が増え、小中や小小で連携した活動やイベント、共通事項や取組も増えていったように思います。その中で確実に中学校区の先生方との関わりや連携が強くなり、学校間の距離も縮まり小中のギャップが軽減したように感じたのは事実です。しかし、一方で活動が増えることによる多忙化や、取組の形骸化を感じるようになりました。この活動ありきの取組から、「15の春」を目指した9年間の学びをキャリア教育の視点から捉え直すことで、十日町市の小中一貫教育が推進し、持続可能な取組に進化してきたと感じています。

今後は、コミュニティ・スクールが小中一貫教育を後押しできるように組織を整えていきます。各中学校区では、改めて「15の春」の姿を具体的に思い描き、小中一貫教育を推進していただくことを期待しています。

# 小中一貫教育

## ■小中一貫教育及びコミュニティ・スクール推進協議会開催(11月1日)

この協議会は小中一貫教育とコミュニティ・スクールの取組を推進するために、2年前から年に2回開催されています。

メンバーは、各中学校区の先生方1名ずつと学識経験者に保護者代表、地域代表で合わせて20名の委員と教育委員会の事務局員です。

今回は十日町市の小中一貫教育の共通取組事項「自己有用感」を高める取組について協議していただきました。



委員からの主なご意見とご指導です。

### ☆「自己有用感」について

十日町市の小中一貫教育の3つの課題(学力向上・いじめ不登校の減少・特別支援教育の充実)の解決と「自己有用感」を高める取組の方向性は合っている。

### ☆「自己有用感」を高める取組の現状について

○異学年交流が有効である。

特に、自主的な活動、課題解決型の活動

△授業や学級経営など日々の取組がまだ

個々の教員や学校ごとに取り組んでいる段階

○地域の生涯学習事業と連携させて効果を上げている中学校区もある。

・地域で子どもが貢献できる事業

リーダー育成的な事業、ボランティア活動

・地域との情報共有

学校と地域の事業を合わせたカレンダーづくりをコミュニティ・スクールで推進

△学校と地域の情報共有・連携が難しい学区もある。



### ☆上越教育大学教授松井千鶴子先生のご指導

○異年齢集団の活動は有効である。

上学年の負担・足かせにならない配慮も必要

□学校や地域の連携について

地域の草の根的な組織との連携が大切

地域の組織との連携を誰が回すのか検討が必要

□自己有用感を高める取組について

基本的には他者評価が基になるが、他者評価と自己の成長の自覚が合致しなければならない。自分の成長を自覚化させる振り返りの積み重ね等が有効である。

□家庭への情報提供を学校はやっているし、保護者も忙しい。視点を変えたらどうか。

・教職員が伝えるだけでなく子どもが楽しかったことを家庭で話せる雰囲気づくり

・お願いして来てもらうだけでなく、保護者が参加したくなる気持ちをもたせる等

これらのご意見・ご指導を踏まえ、次年度の小中一貫教育の計画を作成していきます。



## 教育相談班より

### ■ 特別支援教育研修講座

詳細を知りたい方は、特別支援教育コーディネーターが資料を持っています。  
ぜひ、ご一読ください！

10月21日（木）、特別支援教育研修講座「中級講座②③」を実施しました。演習を行ったり体を動かしたりしながらの内容であり、大変有意義な時間となりました。以下、内容の一部を掲載します。



#### 【中級講座②】教育相談・保護者との連携

教育相談では、保護者や専門機関と連携するには、立場の違いを前提とし、それぞれの専門性を尊重しながら協働する姿勢が求められます。その上で、「保護者面談のコツ」「保護者相談7ステップ」を紹介していただきました。

保護者との連携では、「子どもを中心に指導計画を立てる」「本人参加型の支援会議を行う」などについての説明がありました。特に、「**本人参加型の支援会議**」では、進める上でポイントが押さえることが重要であることが分かりました。

例えば ・本人が主体となって「自分のめあて」を自己選択・自己決定していく。  
・関係者が、「〇〇さんを応援する会」という意識で臨む。 等

#### 【中級講座③】自立活動

学習指導要領に示されている自立活動の内容の説明後、指導の実際について具体的な実践を学びました。

特別支援教育は  
全ての教師が行う！

### ■ 新しい時代の特別支援教育の在り方

令和3年1月に文部科学省で取りまとめられた「新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議 報告」では、通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校といった連続性のある多様な学びの場の一層の充実・整備を着実に推進するため、「**特別支援教育を担う教師の専門性の向上**」として3点を掲げています。

- ① **全ての教師**に求められる特別支援教育に関する専門性
- ② **特別支援学級、通級による指導を担当する教師**に求められる特別支援教育に関する専門性
- ③ **特別支援学校の教師**に求められる専門性

ここで大切にしたいのは、一番目の記載が「全ての教師」であることです。また、発達障害を含む特別な支援を必要とする児童生徒が通常の学級に在籍していることを前提に書かれていることです。

- ① **全ての教師に求められている特別支援教育に関する専門性** ※ 一部抜粋
- ・ 障害の特性等に関する理解や特別支援教育に関する基礎的な知識
  - ・ 個に応じた分かりやすい指導内容や指導方法の工夫の検討
  - ・ 教師が必要な助言や支援を受けられる体制の構築
  - ・ 管理職向けの研修の充実

十日町市では、「特別支援教育にかかわる研修会（校内外不問）に年1回以上参加した教員の割合」100%を目指しています。特別支援教育にかかわる校内研修は進んでいるでしょうか？市セン研修講座の校内伝達講習等は行われているでしょうか？

今一度、**特別支援教育は全ての教師が行う**ものであることを自覚し、チーム学校として特別支援教育に取り組んでいただきたいと思います。

## 学習指導班より

### 県Web配信集計システム配信問題 第2回の結果

【第1回の結果（平均正答数）】 ※小学校は、県小教研学習指導改善調査として実施

	小学校：国語			小学校：算数			中学校：国語			中学校：数学			中学校：英語		
	4年	5年	6年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
県	6.0	8.6	6.5	11.8	12.2	12.1	10.8	12.6	9.7	12.6	7.2	5.7	19.1	11.2	7.5
市	5.8	8.3	6.0	11.5	12.0	10.9	10.3	12.8	9.8	12.1	6.9	5.0	18.9	10.7	6.9
差	-0.2	-0.3	-0.5	-0.3	-0.2	-1.2	-0.5	+0.2	+0.1	-0.5	-0.3	-0.7	-0.2	-0.5	-0.6

【第2回の結果（平均正答数）】 ※問題数が異なるため、第1回との増減は出さない。

	小学校：国語			小学校：算数			中学校：国語			中学校：数学			中学校：英語		
	4年	5年	6年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
県	5.9	5.4	6.3	9.2	8.7	9.6	6.6	6.8	9.0	7.9	5.7	7.3	8.9	8.6	5.9
市	5.9	5.4	6.2	9.1	9.0	9.1	6.9	7.0	9.5	7.9	5.4	7.1	8.2	8.5	5.7
差	±0	±0	-0.1	-0.1	+0.3	-0.5	+0.3	+0.2	+0.5	±0	-0.3	-0.2	-0.7	-0.1	-0.2

- 第1回では、県の平均値を上回ったのは中学国語の1・2年のみでしたが、第2回では県と同値または上回った学年や教科が増えました。また、第1回に引き続いて県の値を下回った学年・教科でも、差が縮まったところが多くあります(中1英語以外)。各校で、学年や教科ごとに力を入れて指導された成果ととらえています。
- 各学年で、第1回に比べて県平均との差が縮まった学校が多く見られます。(依然として県の値を下回っているものの、前回に比べて向上している学校もあります。)

現在放送中のドラマ「二月の勝者」（日本テレビ：土曜夜10時より）をご存知でしょうか。中学受験に係る学習塾をめぐるストーリーなのですが、登場人物の子どもたち（小学生）の中には、なかなかテストの得点が伸びず、諦めている子もいます。その子があきらめかけで、俄然やる気を出す場面がありました。それはやはり、得点の伸びを実感できた時でした。点数は10点から40～50点になっただけで、志望校のレベルにはまだ及ばないのですが、（自分にもできるかもしれない）と思えたことで、学習意欲を高めることができたのです。

先生方はこれと同じように、自分の目の前の一人一人の子どもすべてに、少しでもよくなってほしい、よくなったことを実感してほしいと思いながら日々指導されていることと思います。少しの伸びでも、その子にとっては大きな進歩であり、成長・成果です。毎日現場ではいろいろなことがあることは十分承知していますが、場面をとらえて適切かつ丁寧に称賛、承認することが、学力向上や不登校・いじめの減少につながるはずで、そして先生方自身も、今回のWebの結果のように成績が向上した際は、ご自身の指導に自信をもっていただき、子どもたちを褒めつつ、さらに授業改善に取り組んでいただければと思います。



今年度2回目のWEBQUも実施しました。この結果を踏まえ、3学期や年度末の指導を構想していただくようお願いします。

## 学校教育課・教育センター事業のお知らせ ～12・1月～

日 時	内 容 ・ 会 場	備 考
12月27日(月) 10:00～12:00	教育支援員研修会③ 【南中学校】	講師：ふれあいの丘支援学校 校長 小網輝夫 様 対象：教育支援員
12月27日(月) 14:30～16:30	特別支援教育研修講座 ～初級講座②～ 「特別ではない特別支援教育の推進Ⅱ」 【南中学校】	講師：ふれあいの丘支援学校 教頭 秦野真一 様 対象：管理職、通常学級担任
1月21日(金) 14:30～16:30	特別支援教育研修講座 ～中級講座④～ 「諸検査の活用」 【情報館】	講師：ふれあいの丘支援学校 教頭 秦野真一 様 十日町市教育委員会学校教育課 臨床心理士 稲見 康明 対象：特別支援教育コーディネーター 特別支援学級担任

### ■ 「自己有用感」を高める具体的指導の実践例 募集！

学校全体や学年・学級の取組、個人の実践等 気軽に報告してください。

昨年度は、各校からたくさんの提出をいただきありがとうございました。今年度から、共通取組事項「自己有用感」を高める取組が継続となり、8月の小中一貫教育中学校区合同教職員研修会では、上越教育大学教授阿部隆幸先生より「自己有用感を高める授業づくり・学級づくり」の視点からご講演いただきました。参加された先生方からは「オープン・クエスチョン」の行き交う「対話」に是非取り組んでみたいという感想をたくさんいただきました。阿部先生の御講演に関わる取組でも、それ以外の取組でも結構です。どんどんご報告ください。

また、成功例だけでなく、課題や難しさを感じた実践でも結構です。9月の校長会・11月の教頭会でもお示ししてありますが、再度取組と報告をお願いします。

#### <連絡事項>

- ・実践例報告書の原簿は次のフォルダにあります。
- 職責別>学校間共通>小中一貫教育>共通取組事項
- >各中学校区フォルダ内

(ファイル名(例): 道徳の実践\_△中、Aさんへの支援\_○小)

- ・紙面の提出不要。電子データを上記フォルダに置く。
- ・報告期限は、令和4年2月末

市小中一貫教育共通取組事項  
「自己有用感」を高める具体的指導(支援)の実践例

○○小・中・支援 学校 担当者名:

1 成果が見えた取組	<p>「<input type="checkbox"/> 活動前、指導前、支援指導等の実施</p> <p>○自己有用感を育てる観点から → 活動前、指導前、支援指導等の中に記載した内容 &lt;課題設定&gt;</p> <p>&lt;取組所づくり&gt;</p> <p>&lt;絆づくり&gt; (配慮事項等)</p> <p>&lt;発話・言葉掛け&gt;</p> <p>○工夫した指導(支援)の具体的内容 → 自己有用感を高めるために工夫したこと</p> <p>○成果が見えた子どもの具体的姿 → 自己有用感が高まったと思われる具体的な姿</p>
2 課題が残った取組	<p>「<input type="checkbox"/> 活動前、指導前、支援指導等の実施</p> <p>○自己有用感を育てる観点から → 活動前、指導前、支援指導等の中に記載した内容 &lt;課題設定&gt;</p> <p>&lt;取組所づくり&gt;</p> <p>&lt;絆づくり&gt; (配慮事項等)</p> <p>&lt;発話・言葉掛け&gt;</p> <p>○課題が残った指導(支援)の具体的内容 → 自己有用感を高める効果がなかったこと</p> <p>○課題克服のための具体的改善策 → 自己有用感を高めるための改善策</p>

#### 【表紙写真の説明】

下条中学校区では、併設型の校舎を生かして、児童生徒の交流を小中一貫教育の大きな柱として行ってきました。異学年交流活動として、中学校3年生と小学校低学年、中学校2年生と小学校中学年、中学校1年生と小学校高学年がペアを組み、年間を通して活動をしています。

この日はそれぞれの活動を振り返って報告・共有する会です。中学生が活動を説明し、小学生が活動を通して感じたことを発表しました。

自分たちの活動を振り返り、自他のよさを共有する場が、自己有用感を高めることにつながるのではないかと思います。